

写

報 告 書

平成25年3月

京都SKYセンターのあり方懇話会

目 次

I 懇話会の意見

(1) はじめに

(2) 意見

参考① 京都SKYセンターのあり方懇話会設置要綱

参考② 懇話会の開催状況

別添資料「懇話会で出された意見の事業展開（事務局素案）」

II 資料

＜注：この項の「資料」は、⑤の事務局素案を除き添付を省略しています。＞

① 第1回懇話会関係資料

次第

京都SKYセンターのあり方懇話会の設置について

京都SKYセンターのあり方懇話会設置要綱

平成23年度実施事業点検資料

事業概要（平成23年度版）

京都SKYセンター20年のあゆみ

議事概要

② 第2回懇話会関係資料

次第

会員アンケート集計結果

前回懇話会での話題から

意見交換の項目

議事概要

③ 第3回懇話会関係資料

次第

意見交換の項目

懇話会の実績と今後の運営案

議事概要

④ 第4回懇話会関係資料

次第

他府県資料

懇話会で出された意見の事業展開（事務局素案）

議事概要

⑤ 第5回懇話会関係資料

次第

懇話会で出された意見の事業展開（事務局素案）

報告書

議事概要

I 懇話会の意見

(1) はじめに

公益財団法人京都SKYセンターにおかれては、財団設立後20余年が経過する中、今年度より公益財団法人となった またとない節目をとらまえられ、部外者の目で、京都SKYセンターのこれまでの事業実績を振り返るとともに、現在取り組んでいる各種事業が時代の流れに適応したものとなっているか、より効果的に行えているかを確認して、現在抱えている諸課題と今後の展望について意見を求めることとされ、「京都SKYセンターあり方懇話会」を設置されたところです。（参考①懇話会設置要綱）

これを受け、平成24年10月4日に第1回の懇話会を開催し、岡本委員を座長に選出後、京都SKYセンターが行う事業内容の紹介DVDを視聴し、事業の一つ一つについて、趣旨・実績・課題について説明を受けた後、それらについて意見交換を重ねてきました。（参考②）

団塊世代が65歳を迎える昨今、元気な高齢者がますます増加し、またその生き方も多様化してきている中で、社会で活躍する人も多くなりSKYセンターがSKYシニア大学をはじめ今日までの取り組みにおいて築いてこられた優位性のある事業を活かされ、今後さらに発展されることに思いを込め、懇話会は意見を述べてきました。

ここに懇話会において出された意見を集約して記すとともに、懇話会に提出された資料・概要報告を時系列に整え、報告書として記録に残すことといたします。

(2) 意見

懇話会において出された意見の要点を項目分類して整理すると、次のとおりです。

① 広報関係

高齢社会が進展する中、事業を通じてSKYの名を普及させることは最優先に取り組むべき課題であり会員増のためにも積極的に取り組むべきもの。とりわけ目・耳に入り易いPRに心がけることが重要。また、京都市内自治会の回覧板を活用して事業のPRを行えば大きな効果が期待できるので京都市と協調した取り組みになることを大いに期待する。

② 生きがいつくり推進員関係

SKYの存在の周知や会員の裾野を広げるためにも、生きがいつくり推進員が身近な地域で行う活動は欠かせないことから、SKYセンターとしても、地域・行政と意識的に接触の機会をもち推進員が活動しやすくなる環境づくりをすることが重要。また、推進員の活動を積極的に広報し活動意欲の高揚に心がけることも重要。

③ シニア大学関係

世相を反映した講座内容となるよう絶えず工夫を凝らすことが重要。希望コースが受講できる会場の確保も必要。また、北部地域対策として、遠距離受講システムや短期講座への移行の要望を踏まえた検討が必要。

④ セミナー関係

受講者増に取り組むとともに商工関係団体との連携のもとに現役勤労者を対象としたセカンドライフセミナーの取り組みが必要。

⑤ サークル関係

気軽に集まることのできる場所が切実に求められてきており、検討が必要。

⑥ 業務執行体制関係

SKYセンターの業務にボランティアによる参画を求める方途の検討が必要。

⑦ リーダー養成関係

サークルをはじめとする組織の後継者づくりのために基礎的知識・技術を学習する機会を設けることが必要。

⑧ ナイスシニア関係

現在講座設営中の傾聴ボランティアの育成に取り組むとともに、今後においても事業の拡充に取り組むことが必要。

⑨ 新規取組み関係

健康増進や文化活動を行う民間サービス事業者と連携し、安心して利用できるサービスメニューの拡充に取り組むことが必要。

⑩ 会費関係

会費のダンピングはするべきではないが、会員数を増やすことが緊急の課題であり、期間限定の迫力ある会員拡大の取り組みが必要。

⑪ 情報相談センターの利活用関係

シニア・高齢者に関する施策・事業を行う他団体との情報交換を密にし、高齢者関連情報の集約・発信を担うまさに「高齢者情報相談センター」としての機能をさらに発揮するとともに、利活用の増に結びつく PR の工夫と終活を含め世相を反映した新規事業の取り組みが必要。

以上、これらの意見は、別添資料「懇話会からの意見に対する事業展開（事務局素案）」の左側の欄にも要約されているところです。

また、これらの意見に対し、SKYセンター事務局から平成25年度の取り組みの予定案及び平成26年度以降の検討・実施事項案が別添資料「懇話会からの意見に対する事業展開（事務局素案）」の中央の欄及び右側の欄として示されました。懇話会としてそれらの案の内容について説明を受け、これまで懇話会で出した意見との整合を点検し、了承したところです。

京都SKYセンターにおかれましては、予算・執行体制ともに年々減少・縮小が続き今までにない大変厳しい状況下にあるとのことですが、京都府民の高齢者施策の一翼を担っておられることを自覚され、この懇話会の意見が反映された事業展開がなされるよう付言する次第です。

参考①

京都SKYSKYセンターのあり方懇話会設置要綱

平成24年9月13日制定
 (公財) 京都SKYセンター

(設置目的)

第1 財団設立後20余年が経過する中、公益財団法人の認可を得た今日、今までの事業実績を振り返るとともに、時代の流れに適応した事業をより効果的に行っているかを改めて確認するには絶好のタイミングにある。

この好機に当たり、シニアの社会参画に係る各界の識者参加の下に、「健やか、快適、豊かな長寿社会をめざして」というSKYセンターが果たしていくべき使命にふさわしい事業展開について、意見交換を行うとともに建設的な提案を求めるため本懇話会を設ける。

(構成)

第2 懇話会は、委員、オブザーバー及び事務局で構成する。

2 委員は、次のとおりとし理事長がこれを委嘱する。

区 分	氏 名	現 職
学識者	岡本 民夫	同志社大学名誉教授 (社会福祉)
	築山 崇	京都府立大学副学長・教授 (生涯学習論)
民間実務経験者	鈴木 正直	宝酒造株式会社人事部副部長・労務課長
	中林 雄児	(協) 京都府金属プレス工業会専務理事
SKY関係団体の推薦者	小西八重子	京都SKY大学同窓研修会理事
	坂井美智子	SKYサークルネット役員 (会計)
行政機関	岩永 美好	京都府健康福祉部高齢社会対策監
事業執行者	泉谷 隆信	公益財団法人京都SKYセンター副理事長

3 オブザーバーは、京都府高齢者支援課長及び実務担当者とする。

4 事務局は、SKYセンターの事務局長及び課長を充て、事務局長を総括者とする。

(運営)

第3 懇話会に、委員の互選により選出された座長を置き、議事の進行を行う。

2 オブザーバー及び事務局は、委員の要請に応じ説明及び資料提供を行う。

(経費)

第4 懇話会開催に係る経費は、法人管理会計から支出する。

2 委員 (行政機関及び事業執行者に属する者を除く。) には、懇話会への出席に応じて謝金及び交通実費を支給する。

3 前項の謝金は、京都府附属機関の委員等報酬及び費用弁償条例に規定される委員の報酬日額に準じる。

(雑則)

第5 この要綱に定めのない事項については、理事長が別途定める。

2 この要綱は、平成24年9月20日から施行する。

参考② 懇話会の開催経過

開催回数	開催日	出席委員	関係資料
第1回	平成24年10月4日	全員	①第1回懇話会関係資料のとおり
第2回	11月8日	全員	②第2回懇話会関係資料のとおり
第3回	12月19日	全員	③第3回懇話会関係資料のとおり
第4回	平成25年2月5日	全員	④第4回懇話会関係資料のとおり
第5回	3月8日	全員	⑤第5回懇話会関係資料のとおり

懇話会で出された意見の事業展開(事務局素案)

懇話会で出された意見	事業展開	
	25年度の取り組み	26年度以降の検討・実施事項
① 広報関係		
・これだけ多くの事業をしていることのPR	《新規》パンフの刷新時に入れ込む(高齢者及び高齢期を迎える府民の健康と生きがいの増進を図る事業のPR)	
・安心できる団体であるというPR	・ホームページ充実、他団体との相乗りPR	
・ゴールドカードに対するPR	・ゴールドカードの利点についてPRを強化	
・自治会(町内会)の回覧板を活用したPR	《新規》京都市への協力要請(SKY大学募集、フェス)	京都市以外の府内市町村との調整
・目・耳に入りやすいPR	《新規》キャッチフレーズの作成(公募も検討) 例示: 医者いらずのSKY ピンピンコロリのためにSKYで仲間づくり シニアの心のビタミン補給抛SKY	《新規》SKYソングの試作の検討(替歌方式含)
・広報用DVDを活用したPR	・行催事の前置にDVDの上映	
・会員増の取組方策	《新規》会員勧誘キャンペーン(会員紹介による入会者の会費割引) 《新規》退会者のつなぎ止め(会員の生活と健康に関する調査(仮称)等の取り組み)	数値目標→今後の推移を見極めて対応
・法人会員の増	・法人会員の協力を得やすい互恵事業の提供 ・法人会員へのSKY活用をPR(高齢者相談・情報を提供)	
② 生きがいづくり推進員関係		
・公民館事業との連携	・地域の高齢者対象行催事への協働模索(共催等)	
・行政・地域との連携	・府・市行事に積極的協力と参画	
・推進員の意欲高揚	《新規》推進員事業実績の積極広報(報告集作成と配付)	
③ シニア大学関係		
・府立両大学と連携した講座	・講座メニューの工夫・充実(世相やニーズを反映)	継続性に留意し毎年最適化を図る
・老老介護をテーマにした講座		
・健康をテーマにした講座		
・街づくりに関するコース		
・時事経済に関するコース		
・リピーターを受け入れるレベルアップ講座		
・受講者増に対応できる会場確保	(現状では対応困難←フィットできる収容人員と経費)	今後の実現に向けて検討
・映像を活用した北部地域での遠隔受講システム (日本ソーシャルワーカー協会の基金活用)	《新規》導入に伴う課題を整理する内部検討委員会設置 (対象事業形態、ニーズ、費用対効果など)	
・北部は短期講座への移行を検討	・移行方法や課題の整理	
④ セミナー関係		
・受講者を増やす工夫	・ニーズ把握と魅力あるセミナー講座づくり ・民間のノウハウを活かした協働セミナーの充実 ・SKYセンターならではの工夫(公的施設見学等)	
・現役世代を対象としたセミナーを土日に実施	《新規》試行(商工会議所・商工会連合会、行政等の活用)	
⑤ サークル関係		
・居場所づくり	・SKYセンター内のたまり場の周知	《新規》京都市内や北部地域での交流スペース確保の研究
⑥ 業務執行体制関係		
・ボランティアによる業務への参画	・業務の洗出し(可能性の研究) ・会員のボランティア参画誘導と条件整備	
⑦ リーダー養成関係		
・後継者育成 ・基礎的知識・技術の習得	・既存の会議集会を積極的に活用して実施 (資質向上研修を行う)	ボランティアリーダーの育成取組
⑧ ナイスシニア関係		
・傾聴ボランティアの育成	《新規》24年度研修の成果を分析しフォローアップ	新規の取組み(ボランティアの組成・充実)
⑨ 新規取組み関係		
・民間サービスを活用した健康増進や文化活動の仕組みづくり	《新規》高齢者が安心して利用できるフィットネス事業者を登録し、連携したサービスの展開	事業対象者の拡大(法人会員や提携会社の登録増加)
⑩ 会費関係		
・会費はダンピングすべきではない	《新規》会員勧誘キャンペーン(会員紹介による入会者の会費割引) 《新規》退会者のつなぎ止め(会員の生活と健康に関する調査(仮称)等の取り組み) ・個人・法人会員の獲得策の検討(①の再掲)	
⑪ 情報相談センターの利活用関係		
・情報相談センターの利活用促進	・パンフの刷新、SKY広報紙への利活用PR掲載 ・市町村へのPR強化 《新規》終活(人生の終わりをより良く終えるための生前の活動)に関する相談・情報提供を強化し支援	
⑫ 優先度の低い事業の見直し		
・ビルド&スクラップ	・優先度調整(定着度も含めバランスを考慮して調整)	優先度調整